

2013 年度 演習 F24

電気の美学 [Electric Beauty]

時限：金曜日 4 時限 (15:00-16:30)

教室：4408

単位：2 単位

担当：川久保亮 (Ryo KAWAKUBO)

授業スケジュール：

00: ガイダンス [Sep 27, 2013]

01: 学外演習 [Oct 05, 2013]

02: レクチャー／ワークショップ 1 [Oct 11, 2013]

03: レクチャー／ワークショップ 2 [Oct 18, 2013]

04: レクチャー／ワークショップ 3 [Oct 25, 2013]

04.5: Maker Faire Tokyo 見学 [Nov 03/04, 2013]

05: 中間発表 1 [Nov 08, 2013]

06: 中間発表 2 [Nov 15, 2013]

07: 学外見学 [Nov 22, 2013]

08: ゲスト・レクチャー [Nov 29, 2013]

09: 進捗状況報告 1 [Dec 06, 2013]

10: 進捗状況報告 2 [Dec 13, 2013]

11: 進捗状況報告 3 [Dec 20, 2013]

12: 最終確認／展覧会準備 [Jan 10, 2014]

13: 講評会 [Jan 17, 2014]

授業目的：

知識と呼ばれるものを集積し、それを他者に伝えようとする場合、多くはその手段として言語に頼ることになる。ではなく経験>を伝えるには、どのような手段があり、どのような工夫が必要だろうか。

あるいはまた、理論や理屈としては知っていることを、それを知らない人に対し、それらをうまく説明するにはどのような方法が考えられるだろうか。

本演習では、日常、何気なく見過ごしている、または自明のこととして気に留めないようなことを、言葉を尽して論じるのではなく、一般的にはアートやデザインと呼ばれる手法をもって提示することで、他者にメッセージを伝達するコミュニケーション・スキルを学ぶ。

ただし今日的なアートやデザインは、古典的な美学領域だけに留まることなく、エンジニアリングやコンピュータ・サイエンスなどの科学を横断し、吸収しながら進歩している。

故に哲学や思想で取り扱われる美学の意味も、刷新されなければならない、美術を含む芸術の役割自体、技術の発展と共に更新されているのが現状である。

そんな時代にあって、思考と制作の産物としてのアートやデザインの可能性として、どのようなあり方を提示できるか、高度な制作技術を前提とすることなく、自身のアイデア／発想を具現化するという作業に半期間を費やしてもらう。

頭の中で思い浮かんだことを頭の中だけで実現してしまいう言語表現ではなく、モノとして現実の世界に引っ張りだしてくるスキルや方法論を、自らが工夫しながら模索する時間にしてもらいたい。

授業概要：

現代のわれわれの生活を支えているエネルギーとして、電気の存在は欠くことができない。

自然のエネルギーでありながら、自然の中でよりも、人間の生活の中で様々な動力となるものに変換されて使用されている。現代的な生活において、電気のない生活など考えられないのが現状であろう。

電気は自然の物理現象として存在しながら、主に別の自然の力、例えば水力や火力、風力や原子力などを利用し、それを人工的な動力源に転換する。そうして人工的なものの多くを支えているのである。

また、自然としての電気は、同じく自然の存在としてのわれわれの身体内にも存在している。われわれが何かを考え、あるいは行動する時に、脳内の神経伝達物質は電気の力を借りて信号を伝達する。すなわち、われわれ人間によって表現されたものの全ては、脳内での電気活動の結果だと言ってもよく、われわれの生活は、それが成り立つ根幹の部分で電気の恩恵を受けている。それを前提とした上で、改めて電気というものによって作り出されるものについて考えてもらいたい。

かつてマーシャル・マクルーハンはメディアを人間の拡張として捉えたが、自然でも人工のものの中にあっても、何かを伝えようとする時に必ず媒介している電気が、人間の生み出す美しさにどのように係わり、また「原動力」となっているのか、それを言葉ではなく作品という手段によって実現してもらう。

本演習は電気を扱いながらも、作品という形式をもってメディアやコミュニケーションの可能性について追求し、またそれをモノ作りという手先の思考によって表現するものである。

課題：

「電気という現象の特性を、知覚（見る・聴く・触る）可能な形式で表現する」

表現手段は各自で選択し、制作する。ただし、課題の趣旨を踏まえ、自分が作りたいものを作ることがないように注意すること。自分が得意とする表現手段が最適であるとは限らないので、アイデアに応じた表現を選択し、それが苦手なものでも習得する意欲をもって臨むこと。

ワークショップ：

授業時間内あるいは翌週までの宿題として、制作に入る前段階の、ごく簡単な課題をこなしてもらう。これは制作に関わる技術力の向上のためではなく、アイデアを練るためにテーマに対してどうアプローチすればよいかを、わかりやすい題材で取り組んでもらう。作業に必要なものは事前に指示をする。

評価：

テーマに基づく作品を制作し、学内で行う展示発表会(展覧会)に出品することが単位取得の最低条件。それに加えて、制作ノートの内容、授業内容がちゃんと作品に反映されているかを判断するための出席率、ワークショップの作業を若干加味する。授業内容を反映していない作品を制作しても評価対象外とするので、十分に留意すること。

連絡先・ホームページ・ツイッター：

E-mail: kwkbr@rikkyo.ac.jp

URL: <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ryo-k/>

twitter: @Seminar_F24